

2012. 10. 19

日建連配筋標準図の作成・公表について

日建連 設計委員会（委員長・河野晴彦 大成建設設計本部長）は、建築業界全体で一般仕様として使用されることを目指して、鉄筋コンクリート造の配筋標準図を作成・公表しました。

【背景】

これまで鉄筋コンクリート造建築物における配筋標準図は各社毎に作成し利用されてきました。その結果、実現場の鉄筋工事においては混乱が生じ、配筋の間違いの原因ともなっていました。

建築業界全体で一般仕様として使用されることを目指して鉄筋コンクリート造の配筋標準図を作成することにより、実現場の鉄筋工事における負担を軽減し、建設工事の迅速化、施工品質の確保に貢献できるものと考えています。今後は建設会社はもとより、設計事務所にも共通の標準図として普及を図る予定でいます。

【概要】

鉄筋コンクリート造における配筋要領は、鉄筋コンクリート造の基本となり、構造耐力上極めて重要な事項です。その配筋要領の規準となるのは、日本建築学会の「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、「建築工事標準仕様書 J A S S 5」、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」、そして国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」などとなりますが、現状ではそれぞれの配筋要領がすべて一致しているわけではありません。また、鉄筋コンクリート造の超高層化などにより、大臣認定を取得した高強度材料の使用が一般化されてはきましたが、高強度材料の仕様は上記規準等の適用範囲を超える材料となっているのが実情です。そのような背景において、実現場では現場ごとに設計事務所やゼネコン各社が独自に作成している標準図を配筋要領とするか、東京都建築士事務所協会が作成している標準図などを配筋要領としています。このため、実現場ではそれぞれの現場の設計仕様に対応せざるを得なくなり、鉄筋工事業者にも負担をかける結果になっています。このことは、生産性の低下に繋がるとともに品質のばらつきの一因になっているとも考えられます。また、このような状況を継続させることは、建設業界全体の経済損失、発注者の信頼損失をも産みだしかねない事態といえます。

そこで日建連では設計委員会 設計部会 構造設計専門部会が中心となり、建築業界全体で一般仕様として使用されることを目指して、鉄筋コンクリート造の配筋標準図を作成することとしました。建設会社はもとより設計事務所にも共通の標準図としての普及を図ることで、実現場の鉄筋工事における負担の軽減、ならびに建設工事の迅速化、施工品質の確保に貢献できるものと考えています。

利用の方法については、日建連ホームページの出版物のコーナーから PDF 形式でダウンロード可能です。

本件に関する問い合わせ先

(社)日本建設業連合会（担当：森）
電話 3551-1118（建築部）
東京都中央区八丁堀 2-5-1 東京建設会館